

## 平成26年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	管理会計論A (Management Accounting A)		授業コード	E009001
担当教員名	橋本 堅次郎		科目ナンバリングコード	E30606
配当学年	3	開講期	前期	
必修・選択区分	選択	単位数	2	
履修上の注意または履修条件	簿記、原価計算といった会計の関連科目をしっかりと勉強することが望ましいです。			
受講心得	意思決定のための会計ですから、企業の経営者や管理職になったつもりで受講してください。自分ならどうするかという視点が必要です。			
教科書	特にありません。			
参考文献及び指定図書	櫻井通晴著「管理会計—第二版—」 加登 豊著「管理会計入門」 上総康行著「管理会計論」新世社			
関連科目	簿記入門、財務管理論、会計学、原価計算論			

授業の目的	<p>管理会計は、企業経営を行う上で非常に重要な学問と考えられています。管理会計は意思決定のための会計ですが、この授業では主に管理会計と考え方を理解するとともに、実務的にどのように使われているかを学びます。社会に出て役立つように、管理会計の構造を理解し、使えるようになることが目的です。</p> <p>また「考える」から「考え抜く力」を身に付けることも重要視します。</p>
授業の概要	<p>管理会計論に必要な基礎知識や専門用語の理解を深めます。そのために毎回「学び」「質問」を小レポートで提出もらいます。質問については次回の授業の最初に答えます。管理会計は業務との関係が深いので、質問の答えも実務に即した幅広い内容になります。</p>

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
<b>第1週：管理会計とは</b> 管理会計とは何かについて学習をします。会計とは何か、経営管理とは何かについても学習する必要があります。これらを教えた上で、管理会計とは何かについて学習していきます。	
<b>第2週：管理会計と財務会計との相違</b> 管理会計と財務会計との相違点を学習していきます。会計の2大領域である財務会計との対比を説明していきます。それによって、管理会計の特徴がより明らかになると考えます。	
<b>第3週：管理会計システムとは何か</b> 企業では管理会計をシステムとして導入する事例が多く見られます。管理会計システムの概要と管理会計システムの導入が管理会計をしていることにならない点について学びます。	
<b>第4週：管理会計に必要な知識</b> 管理会計の基礎になるのは会計情報です。すでに会計の勉強をしている学生諸君には復習となりますが、まったく会計の知識がない学生にも分かるように説明を進めます。	
<b>第5週：数値の背景を知る</b> 管理会計は数値をうのみにするのではなく、百貨店再建の事例から粉飾や数値操作について学び、業務を正確に遂行していないと管理会計はできないことを学びます。	
<b>第6週：在庫の知識</b> 在庫数値の正確な把握は適正に業務が行われているかどうかの重要な判断ポイントです。在庫把握、流れを知ることで売上やコストなどの業務全体の把握につながることを学びます。	
<b>第7週：モデルを使う</b> 部分だけを見ても全体の把握はできません。全体を把握するためには「モデル」を使うことが必要です。モデルは検証された少なくとも5年以上は使われたモデルを使うことも学びます。	
<b>第8週：キャッシュフローマネジメント</b> 「なぜレジからお金を持ち出してはいけないか」。キャッシュフローマネジメントの重要性について学びます。キャッシュフローを管理することは私生活についても重要なことも学びます。	

<b>第9週：企業事例</b>		
キャッシュフローマネジメント、在庫数値を重視している事例を取り上げます。企業の歴史、業態、業界、商品特性といった背景の重要性。計算することが管理会計でないことを学びます。		
<b>第10週：貸借対照表の構造と管理会計</b>		
貸借対照表は会計の知識のない学生にとってはなじみにくいものですが、引越しと生活用品の事例を取り上げ、構造を説明し管理会計との関係を学びます。		
<b>第11週：経営計画と管理会計</b>		
管理会計は経営のすべての要素と連動しますが、経営とどのように関係するか・また管理会計として部門損益を事例に上げ、経営との関係を学びます。また管理の面白さについても理解を深めます。		
<b>第12週：粉飾はなぜいけないか</b>		
業務を知るうえで粉飾の実態をすることは大変に需要です。粉飾を知ることでやってはいけないことを知ることになります。様々な粉飾の方法と事例について学びます。		
<b>第13週：数字を読む</b>		
管理会家は計算ではなく実践ですが、管理資料として作成された数値を読むスキルが必要です。数値を読むときの目のつけどころについて学びます。		
<b>第14週：分析手法から考え方を学ぶ</b>		
数字の把握や分析には「率」「額」の把握が重要です。モデルとしてABC分析とプロダクトポートフォリオの考え方を理解することでオリジナルの分析を行うことも可能になる重要な手法です。		
<b>第15週：まとめ</b>		
<b>第16週：期末試験</b>		
授業で配布した資料のみ持ち込み可。		
<b>授業の運営方法</b>	(1)授業の形式	「講義形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	
<b>備考</b>		

<b>○単位を修得するために達成すべき到達目標</b>	
<b>【関心・意欲・態度】</b>	管理会計について関心を高める。
<b>【知識・理解】</b>	管理会計は計算することだけでないことを理解し、様々な事例から管理会計についての知識と理解を得る。
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b>	毎回のレポートを通して、授業で得た識見を文字で表現することを学ぶ。さらに他の学生のレポート内容を知ることによって識見の幅を広める。
<b>【思考・判断・創造】</b>	全15回の授業で管理会計への情報を蓄積し、企業の数値について思考・判断ができるようになること。自分自身の考えを創造することができるレベルを目指す。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等(テスト)	レポート・作品等(提出物)	発表・その他(無形成果)	
<b>【関心・意欲・態度】</b> ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。	10点	10点		
<b>【知識・理解】</b> ※「専門能力<知識の獲得>」を含む。	20点	10点		
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b> ※「専門能力<知識の活用>」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。	10点			
<b>【思考・判断・創造】</b> ※「考え抜く力」を含む。	30点	10点		
<b>(「人間力」について)</b> ※以上の観点到、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等(提出物)	
発表・その他(無形成果)	